



414
A 1120



意見書

一豫算維持之法ヲ確メスルハ最大緊要ノ事項
 ニシテ前業以前ニ在リテ綿密審査ヲ遂ケサレハ創
 設之后ニ至リ或ハ逕庭之患ナキヲ保スヘカラス其維
 持之法ヲ確立スルハ豫メ收入金額ト支出金額ト
 對計シテ幾分ノ餘剰ヲ得ルニ在リ收入金ノ多
 カインコトヲ欲スルハ務メテ發賣ノ紙數ヲ増殖スルニ
 在リ抑此新紙ノ性質タル世之風潮ニ逆ヒ時好
 ト相背馳スルコトヲ發賣ノ多カラントラ望ムハ本
 テ魚ヲ求ムルト一般得テ望ムヘキノ策ニ非ス發賣少
 キ内ハ收入多カラス收入タカカラルキハ經費何ニ由
 テカ能ク及ヘシ然レ氏江湖新聞ト同シク目下若干
 之資金ヲ準備シ發兌之後流行スレハ善シ不流

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



行ナレ止ルマテ云フカ如キ苟且之策ニ出ラタル尋
常一般之度業テハ亮モ顧慮スル所ナレト雖氏今
日本紙ヲ創設スルノ趣意ハ之ニ異ナリ專ラ尊
王愛國ノ主義ヲ煥發シ臣民節義ノ精神ヲ鼓
舞スルノ要點ニ在レハ創始之後維持之方法尚
確立セカレニ於テハ實ニ無上之不佞哉ト言ハカルヘ
カラス從來江湖ニテ兌スル所ノ新聞紙ハ其
數幾百種ナラ知ラレ氏近キハ一二月迄キモ羊年
或ハ一年ヲ閱セスシテ計算當ラ失シ其業ヲ廢絶
スルモノ其例鮮少ナラス今日存在シテ其業ヲ繼
続スルモノハ蓋シ十中ノ二三ニ過カルヘシ其十中二三ノ
存在スルモノモ創業之際一年若クハ二年ノ間ハ充
實ノ數少キハ一日一二千多キモ三千ニ過キス四千五

千ニ至ルハ容易ノコトニアラリシト測ケリ其時好ニ披
スルモノスラ如此況ンヤ世之凡潮ト逆歩スルモノヲ
永遠刊行セントスルハ實ニ至大至難ノ業務ナレハ
基礎ヲシテ十分ニ鞏固ナラシメタルヘカラス是レガ生
カ深ク憂慮シテ及覆審案ヲ要スル所以ナリ苟生
久シク職ラ地方官ニ奉シ王事ニ執掌スル茲ニ年ア
リ今ヤ一朝冠ヲ挂ケテ此業ニ従事セントスルハ苟モ
輕忽之措置ニ出テタルニアラス厚ク尊王愛國ノ
主義ヲ遵奉シ上政府施政之便益ヲ謀リ下輕
躁浮薄之世弊ヲ矯メント欲スルノ精神ナレハ維
持法之確立スラ認メテ一意尽力スル所アラントス
而シテ其維持法ヲ定メントスルモノ前ニ述ルカ如ク本紙ハ
時好ニ反對スルヲ以テ其販賣ノ數五千部ニ達スル

ハ暫ク措キ二千部ニ滿タカルモ未タ知ルヘラス二千部三千部ノ販賣ニテハ本社之經濟決シテ支フヘキ所ニ非ス四千五百部以上ニ達スルノ后始テ收支其衡ヲ得ルニ至ラシ販賣ノ數ヲシテ四千五百部以上ニ達セシメント欲セハ必ス之レヲ購求者ヲ豫定セカレハ其購求者ヲ預定セシハ華族及官省ニテ購求ノ義務ヲ負ハシルノ外亦他ニ策アルヲナシ故ニ四千五百部ノ購求者ハ華族及官省之負擔スル所ト定メ置クハ維持法ヲ立ツルノ基本ニシテ實ニ至大緊要ノコトナリ也本社創立之經濟ヲモ華族ヨリ支辨セシノ仍ホ購求之義務ヲ負ハシルハ聊カ苛酷ノ所為ニ似タルヲ以テ發行之初ニ當リテハ別ニ汎ク販賣之途ヲ求テ彌購求者之寡少ニシテ本社之

經濟ヲ保続スルニ足ラカル場合ニハ位ニ華族ヲシテ購求セシムルノ順序ニ及フハ處置之妥當ナルモノナラシカト思慮シタレ度更ニ又一步ヲ進メテ觀察スルハハ販賣之途ヲ維持之目途ヲ立タカレヨリ終ニ華族ニ迫リ購求セシメタリトノ説一タヒ世上ニ流布スル片ハ忽チ本紙之色價ニ大ナル影響ヲ及ホシ將來營業ノ障礙少カラカラス本社設立之旨趣モ一敗地ニ塗ルニ至ラシ從來華族ハ身士民之上ニ位シ首トシテ國家之安寧ヲ計畫セカレハカレナル責任ヲ有シタル貴族ニシテ中ニハ疇昔大小ノ封土ヲ石領セシモノモ居多ナルハ其購求シタル新紙ハ舊君臣ノ情懷ヲ以テ之ヲ旧藩ノ中小學ホハ分與スルハ徒ラニ無用之新紙ヲ購買シ蠹魚ノ腹ヲ肥サシ

ムルト違ヒ大ニ國家之裨益ト為ルヘキコトナレハ彼等ニ
購求之義務ヲ負ハシムルモ敢テ不可ナリト云フヘカラス
然リト虽モ多數之購求者中或ハ義務ノ為メニ
檢束セウレ已カフ得スレテ購買スル者ナキニシテアラス
ルヘケレハ本紙發兌ノ後販賣之途意外ニ廣ク逐
漸盛大之域ニ道ノ景況ニ逢ハリ尋常發賣之
數一千部ニ及フ毎ニ此等義務者之購求部數ヲ
適減シ又之ニ及レテ販賣之數減縮シ四千五百
部以下ニ降ルコトアルハ再ヒ前ノ手續ヲ踐シ購
求之義務ヲ負ハシムル方法ニ為シ置クハ維持之
目途完全ニシテ社運衰頹之患ナカルヘシ
但此儀ハ本文ニ縷述スル如ク最大緊要之事件
ナルヲ以テ開業以前ニ於テ確定セウレ其旨ヲ領

得スルノ後從事セシコトヲ希望ス
一豫算書中本紙販賣ノ數三千五百八十四部ニ至レハ
本社之經濟始メテ充實スルヲ得ヘシトアレハ昔年ノ見
込ニテ四千五百部以上ニ及ハカレハ經濟得テ又コトラス
ト云フモノハ尤ノ二三ノ理由アルヲ以テナリ其理由ハ何ソ
第一記者其人ヲ得カレハ新紙之聲價ヲ墜シ聲價
低落スルハ收入減少スルハ理之觀易キモノナリ勿論
本紙ノ如キハ別ラ記者ヲ撰擇スルヲ以テ肝要アリト信
スルコト故ニ文才筆力大ニ衆ニ卓越シ論議公正行文
整齊有ニシテ能ク読者ヲシテ賞賛セシムヘキ程ノ者ヲ聘
セカレハ新紙之勢力自ラ微弱ナルノ患ナリ良記者
ヲ得ント欲スレハ之ニ酬ユルノ俸給モ亦多カラカレハカラス
依ラシ号營業經費預算書中記者ノ給料百五十

田及百二十円合金二百七十円ノ二項ヲ二百四十円ト二百円ト
合金四百四十円ニ増加スルノ見込ヲ以テ豫算之目ヲ修
正セリ第二會計之主任者其人ヲ得テ會計簿錯
雜シ經濟之道整理セス故ニ主任者ハ三十円ヲ給典
スルノ見込ニテ同シテ預算之目ヲ修正セリ第三他之新
聞社ホミテハ社員之勉強ヲ喚起スルカ為メ臨時手當
金ヲ給スルノ舉アリト聞ク本社於テモ之ニ倣ヒ勉強ノ
者ハ臨時手當ヲ給典シ社員ヲ獎勵セシメント欲
ス此費用モ幾分カ經費額内ニ見込マカルヲ得ス其
他諸器械之類モ多少毀損ナキヲ保シカタケレハツノ
修補費用モ亦幾許カ預備セカレハ又丙号損
益豫算書ニ於テ廣告料印刷代ナルモノハ他ノ流行
新聞ニハ陸續依頼スル者モアリテ相當ノ收入モアル

ヘケレ本紙ノ如キ及對新聞ニ於テハ依頼者ノ有無
豫シテ量リ知ルベカラカレハ之ヲ收入金ノ月額ニ編入
シテ損益ヲ比較スルキハ或ハ計算當ラ失スル患ナキ能
ハス故ニ之ハ暫ク豫算外ノモノトシ收入ノ有無ヲ問
ハカレ見込ナリ如此彼此對照シテ計算ヲ立ツルキ
ハ四千五百部以上ノ發賣アルニ非カレハ到底此社之經
濟ハ支フ可カラナリ
一社長以下幹事等職務條例ノ詳細ナルモノハ逐ラ
調理スルモ妨ナレト虽氏其大体ハ豫シテ定メ置カレハ更
業削手之障害アルカ為メニ尤ノ通其職務ノ網
領ヲ定メント欲ス
社長 幹事以下ノ社員ヲ統轄シ其進退點
陞ヲ漸行シ社中一切ノ事務ヲ總管ス

幹事

社長之指揮ヲ受ケ社中ノ諸務ヲ辨

理ス

會計

社長之指揮ヲ受ケ出納ニ係ル一切ノ支

務ヲ調理ス

右之通